

# 札響くらぶ

【編集・発行/札響くらぶ】 064-0931 札幌市中央区中島公園1-15 札幌交響楽団事務局気付  
メール: infomation@sakkyoclub.net  
ホームページ: http://sakkyoclub.net/sakkyoclub/

2015. 7

71



## 平成27年度 札響くらぶ総会の報告

6月20日土曜日、快晴の中島公園の一角にある札幌市中島体育センターの2階講堂において、平成27年度札響くらぶ総会を委任状を含む90名の会員が出席して開催しました。(事務局長 武藤義典)

### 開 会

総会は、定刻を少し過ぎた10時10分に開会し、開会にあたって上田会長からのあいさつがあり、来賓として出席された小沢札響専務理事、市川札響専務局長を紹介し、来賓を代表して小沢専務理事から札響の運営では26年度はある程度の利益が確保できたことなど話されました。

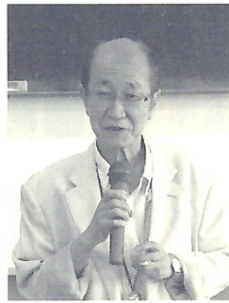
総会の進行を担当する議長の選



上田札響くらぶ会長



小沢札響専務理事



議長に就任したスタッフの朽木氏に出にあたって、事務局から推薦したスタッフの朽木尚明氏が選出されました。

議案第1号 平成26年度札響くらぶ活動報告及び議案第2号 札響くらぶ会計決算及び会計監査報告

平成26年度札響くらぶ活動報告では事務局長から会員数の報告、会報「札響くらぶ」の発行、札響楽譜支援、維持会員の継続、交流会の開催、練習見学会の開催、札響くらぶサロンの開催、札幌市内中学校吹奏楽部札響定期演奏会招待事業の実施、会員証の発行、日本プロオーケストラファンクラブ協議会(JOFC)第8回総会の参加、退団楽員への花束贈呈、札響くらぶホームページ・メーリングリストの運営、札響くらぶ運営

会議等の開催について報告しました。札響くらぶ会計決算については中居会計担当から収入・支出について説明、会計監査報告は橋詰会計監査から正常に処理されている報告され、議案第1号 平成26年度札響くらぶ活動報告、議案第2号 札響くらぶ会計決算及び会計監査報告を一括審議に付され、採決の結果、満場一致の拍手で承認されました。

議案第3号 平成27年度札響くらぶ活動計画(案)として事務局長から、楽譜支援の継続、維持会員の継続、札響定期会員維持会員の拡大、札幌市内中学校吹奏楽部札響定期演奏会招待事業の実施、札響楽員のリサイクルやコンサートなどの支援、札幌交響楽団が行う社会貢献活動の札響くらぶホームページ掲載、札幌東京公演ツアーの実施、札響くらぶ会員の拡大、札響くらぶサロンの開催、交流会の開催、練習見学会及びゲネプロ見学会の開催、会報「札響くらぶ」の発行、会員証の発行、日本プロオーケストラファンクラブ協議会(JOFC)第9回総会の参加、札響くらぶホームページ・メーリングリ

ストの運営、運営会議等の開催を提案、審議に付し、上田会長から札響くらぶ会員の拡大について、数値目標の設定、札響をよく知る人たちへの入会を奨める工夫をしてはどうかとの提案があり、そのほか出席者からの質問や提案などはなく、採決に付し満場一致の拍手で活動計画は承認されました。

議案第4号 札響くらぶ年会費の改訂及び札響くらぶ会則の一部変更

札響くらぶ年会費の改訂について、事務局長から繰越金は年度当初の運営費に充てるものであるが、その繰越金が年度ごとに減少し、年度当初の運営費が不足する状況にいたり、札響くらぶ創立から据え置かれていた年会費の改訂を提案せざる得なくなったと提案理由を説明、それに関連する札響くらぶ会則の変更も提案しました。

年会費の改訂について審議に付し、26年度の年会費の収入から計算すると未納会員が100名以上いることになるが、それはどうしているのか、と質問が会員からあり、事務局長から会員数にはファミリー会員が含まれており、会費はその会員を含めたマスター会員が納入しており、実質の未納会員は30名程度となり、未納会員に対しては会報の発行の都度納入のお願い文書と振込書を同封して納入を促している」と説明しました。その他の

質問等はなく採決の結果、満場一致の拍手で承認されました。

議案第5号 平成27年度札響くらぶ予算(案)

平成27年度札響くらぶ予算案)について事務局長から収入・支出について説明、審議に付し、特に質問がなく採決の結果、満場一致の拍手で承認されました。

### 閉 会

以上ですべての議案審議が終了し、西川副会長のあいさつで予定時刻より早く閉会しました。



西川札響くらぶ副会長



総会を開催した札幌市中島体育センター2階講堂

# 9月・10月の定期・名曲シリーズ演奏会 演奏会を楽しく聴くために

八木 幸 三(札幌くらぶ会員)

## 第580回札幌定期演奏会

9月4日(金) 19:00  
9月5日(土) 14:00  
札幌コンサートホール大ホール  
指揮とオーボエ



ハインツ・ホリガー

### フンメル/序奏、主題と変奏

へ長調

ベートーヴェンと同世代のフンメルは、早い時期から才能を発揮しモーツァルトの家に住み込みながら2年間ピアノを師事。生前は、作曲家、ピアノ奏者としてベートーヴェンと並び称されたが、死後は20世紀になるまで彼の名は忘れ去られていた。「序奏、主題と変奏」は、オーボエと管弦楽のために書かれた協奏曲で、世界的オーボエ奏者で今定期の指揮者でもあるハインツ・ホリガーの吹き振りに大注目。

### シューベルト(R.モーゼル編)

アンダンテ 口短調 D.936 A

シューベルトの最期の年に着手された3楽章のスケッチで、交響曲第10番とも呼ばれる第2楽章アンダンテをモーゼルが編曲したものの。この楽章は口短調で書かれ、神秘的な冒頭から「冬の旅」的な世界が広がっていく。

### シューベルト/交響曲第7番口短調「未完成」

シューベルトには6曲の「未完成交響曲」がある。彼は31年の生涯で13の交響曲を残したが、完成された作品は7曲であった。他の交響曲はスケッチ段階か、フルスコアから書き始めてすぐにやめてしまったものなどである。その中でD759番の「未完成」は、2楽章まで書かれた。作曲者が25歳で書いたこの作品は、それから43年の歳月を経た1865年に初演されている。ちなみにシューベルトの生前には、彼の交響曲はどれひとつ印刷されていない。共通の動機に基づく2つの楽章は、実にロマンティックで完成度が高く、その後のブラームス、ブルックナーなどに大きな影響を与えている。

### バルトーク/管弦楽のための協奏曲

経済的に恵まれず、困窮した中

で生涯を終えた作曲家は意外に多い。ハンガリーの民族音楽などを素材に多くの作品を残し、第2次世界大戦の最中、母国からアメリカへ亡命したバルトークもその一人。健康も損ねていた作曲家を憂慮したポストン交響楽団音楽監督

クリゼヴィツキーが自らの財団より彼に委嘱したのがこの作品だ。委嘱料千ドルは当時としては破格で、この委嘱によりバルトークは創作意欲を取り戻した。初演では「20世紀に入つての最高のオーケストラ作品」と絶賛され翌年作曲家自らが改訂も加えている。

### 森の響フレンドコンサート

#### 札幌名曲シリーズ

「海」フランクスの印象

9月19日(土) 14:00  
札幌コンサートホール大ホール  
指揮/ジョシユア・タン  
チエロ/石川 祐支

#### ドビュッシー/牧神の午後への前奏曲

それまで、ほとんど無名だったドビュッシーは30歳の時にこの作品を発表し一躍名声を上げる。フランス印象派詩人マラルメの家に



ジョシユア・タン



石川 祐支 ©佐藤雅英

出入りしていたドビュッシーは、そこで多くの詩人や画家と出会い大きな影響を受ける。マラルメの象徴詩「牧神の午後」を下敷きに、半音階的な和声による曖昧で繊細なニュアンスのこの作品は、幻想味豊かで作曲家が印象派音楽家と呼ばれる出発点となった。

### サン・サーンス/チェロ協奏曲

第1番

サン・サーンスは、協奏曲と名の付く作品を10曲書いているが、チェロ協奏曲は2曲ある。この第1番は、38歳の時の作品で30年ほど後に書かれた第2番よりも演奏頻度は、はるかに多い。単一楽章で書かれているが、大きく3部に区分される。冒頭の主題は楽曲全体を強く支配し、古典的手法が散見されるが、全体を通して表現の軽快な質と才気を感じさせる名曲となっている。

### ラヴェル/道化師の朝の歌

夜通し飲んだ後の朝帰りを経験された方はいるだろうか。この曲名にある「道化師」とは、「人気者」「伊達男」という意味もあり、「伊達男の朝帰りの歌」とでも言えるのである。つまり欲楽の一夜を明かした後のいなせな男の鼻歌である。「音の魔術師」と呼ばれたラヴェルだけあって、ピアノの原曲を絵画的要素の強い巧みなオーケストレーションで映像描写のように仕上げている。

### ドビュッシー/3つの交響的素描「海」

この曲は、交響詩とも言われるが元々は3つの交響的エスキス(素描)と題され、作曲家自身、交響的習作ととらえていたようだ。しかし、この曲は優れたオーケストラレーションにより色彩の冴える鮮やかなパレットから描き出された作曲家の代表的管弦楽作品。彼は、単純に海の光景を描いているものではなく、自然の中にひそむ運動性やエネルギーに着目して、それを海の動きに託したのだ。

## 第581回札幌定期演奏会

10月2日(金) 19:00  
10月3日(土) 14:00  
札幌コンサートホール大ホール  
指揮/広上 淳一  
ピアノ/小山実稚恵



広上 淳一 ©Greg Saito



小山実稚恵 ©ND CHOW

### ラフマニノフ/ピアノ協奏曲第3番

ラフマニノフが米国初演を目的に作曲したこの作品は、1909年に作曲家自身のピアノとニューヨーク交響楽団により初演された。また、翌年にはマーラーの指揮という豪華な組合せも実現している。この曲は、規模が大きく、よりロシア的色彩が濃いのも特徴で、冒頭のピアノ主題はロシア正教会の聖歌から採られていると言う。

### ラフマニノフ/交響的舞曲

晩年のラフマニノフは、戦争の危機を避け、ロング・アイランドに別荘を借り、一見平穏な生活をおくっていた。しかし、ナチス・ドイツ軍がロシアにまで侵攻する勢いに心労は重なっていた。そんな時期に最後の力を振り絞り書き上げたのがこの作品である。朝の9時から夜の11時まで作曲に没頭し、1940

年の夏ごろにはオーケストラレ  
シオンに取りかかっている。はじめは「幻想的舞曲」という題名が  
考えられ3つの楽章には「正午」  
「夕べ」「深夜」の副題も与えよ  
うとしていたらしい。

森の響フレンドコンサート

札幌名曲シリーズ

「モーツァルトと

チャイコフスキー

10月17日(土) 14:00

札幌コンサートホール大ホール

指揮/秋山 和慶

ヴァイオリン/田島 高宏



秋山 和慶

モーツァルト/交響曲第35番

「ハフナー」

この曲は、もともとザルツブル  
クの家ハフナー家の爵位授与式のため  
に書かれたセレナードが原曲とな  
っている。モーツァルト自身が

田島 高宏 ©佐藤雅英

驚くほど良いと感じ、交響  
曲としてつくり直され大好評を得  
る。オクターブ跳躍による衝撃的な  
開始から生まれる雄渾な楽想は、  
原曲が壮麗な式典を意識してつく  
られているからだろう。第2楽章  
は、アリアを想起する美しい旋律  
で管楽器も適度な色彩感を加え、  
第3楽章のメヌエットも実に典雅  
で続く第4楽章は、「後宮からの  
逃走」のアリアが転用されている。

モーツァルト/ヴァイオリン協

奏曲第5番「トルコ風」

モーツァルトは19歳の1775

年にザルツブルグで、5曲のヴァ  
イオリン協奏曲を集中的に作曲  
しているのがこの第5番である。当  
時ウィーンでは、オリエンタルな  
雰囲気を出すトルコ音楽がブ  
ームだったようで、この曲の第  
3楽章メヌエットには、特徴的な  
東洋風なリズムと旋律による「ト  
ルコ風」と呼ばれる中間部があり、  
この曲の題名ともなっている。

チャイコフスキー/三大バレエ

音楽「白鳥の湖」「くるみ割り

人形」「眠りの森の美女」

もし、この世にチャイコフス

キーの三大バレエ音楽が存在しな  
かったら、現在のバレエ芸術はど  
うなっていたらだろうか。「白鳥の  
湖」は、登場人物の肉体的描写、  
音楽の美しさと同時に演劇展開が  
緻密に音楽と結び付いている点で

画期的作品。ディズニーが、「眠り  
の森の美女」の音楽を最大限に使  
用した長編アニメをご覧になって  
いる方も多いことだろう。そして、  
クリス・スミズンには定番のレパ  
トリ「くるみ割り人形」は、チャ  
イコフスキーがアメリカに演奏旅  
行にいったおり、発明間もない最  
新楽器であるチェレスタを効果的  
に用い、ファンタジックな童話的  
世界を見事に作り上げている。

第582回札幌定期演奏会

10月30日(金) 19:00

10月31日(土) 14:00

札幌コンサートホール大ホール

指揮/尾高 忠明



尾高 忠明 ©諏野俊之

尾高尚忠/交響曲第1番

短調

筆者が、この曲をはじめ聴い  
たのは今から6年前、キタラで開  
催された「現代日本オーケストラ  
名曲の夕べ」というコンサート  
だった。終戦後間もない1948  
年に「平和のために世界に送る交  
響曲懸賞」で第1位となった作品

で、作曲者自身の指揮により日本  
交響楽団(現N響)により初演さ  
れている。長らく単一楽章と思わ  
れてきたが、近年第2楽章が発見  
され6年前にも2つの楽章が演奏  
された。第1楽章は、力強い楽想  
がR・シュトラウスを思わせる濃  
厚なスコアで奏でられ、第2楽章  
は、尚忠が自身の死を予感しなが  
らも人生の深遠を表現しているか  
のような静謐なアダージョで深い  
感銘を受けた記憶がある。

ブルックナー/交響曲第9番

短調(コールス版)

ブルックナーは、自身の死を考  
えながらこの第9番を書いたよう  
だ。それは、ベートーヴェンの第9番と  
同じ短調であり、第3楽章が完成  
した頃には「終楽章が未完であれ  
ば代わりにテデウムを」と作曲者  
自身が語っている。事実、第4楽  
章を作曲中に彼は、72年の生涯を  
閉じた。この曲は不協和音とも言  
える複雑な和音を多用し、全体に  
神秘的で陰鬱な雰囲気醸しなが  
ら、完成度の高い表現世界を創り  
出している。尾高忠明は、名指揮者  
シュリーヒトのブルックナーに憧れ指  
揮者となり、彼の父尾高尚忠は、こ  
の曲を半世紀以上前に国内初演し  
ている。そう言った意味でも尾高自  
身ブルックナーへの思い入れは大き  
いだろう。今回は、コールス版により  
第3楽章までが演奏される。

(写真提供/札幌交響楽団)

第10回札幌くらぶサロン

ホルン山田さんのミニコンサート開催!

第10回札幌くらぶサロンが5月  
17日(日)に教育文化会館401  
号室で開催され40名の方にご参加  
いただきました。

第1部は札幌定期演奏会前半の  
聴きどころ。アーカイブで第92回  
定期よりシューマン「交響曲4  
番」、第242回よりラフマニノ  
フ「ピアノ協奏曲第3番」それら  
を八木先生のユニークな解説で進  
めていただきました。

第2部は前回のサロンで初めて  
実現したミニコンサートを開催。  
今回は札幌ホルン副首席奏者の山  
田圭祐さん、ピアノ伴奏山神壮平  
さんです。まずは楽器について角  
笛から狩りのホルンを経てヴァル  
ブホルンと進化してきたお話や管  
楽器の自然倍音列に基づいて作曲  
されていた曲のお話、理解しやす  
い資料も準備いただき勉強になり  
ました。演奏はベートーヴェンの  
「ホルンとピアノのためのソナ  
タ」、次にシューマンの「ホルン  
とピアノのためのアダージョとア  
レグロ」。そしてアンコールのプ  
ラームスの練習曲でした。素晴ら  
しい演奏を聞かせていただき、山  
田さんありがとうございました。

第3部は恒例となりました交流



ミニコンサート(右が山田圭祐さん(札幌ホルン副首席)、左のピアノが山神壮平さん)

今回、札幌くらぶサロンについてのアンケートを初めて取らせていた  
きました。開催日時については土  
曜日の夜、場所についてはこのまま教  
文の401号室、という希望が一番  
多かったのですがこはほとんど空  
きがなく、今現在場所を調整中  
です。これからもみなさまのご意見  
を取り入れながらもっとたくさん  
の方に参加していただけるよう  
なサロンにしていきたいと考えてい  
ます。次回のサロンは9月頃を予  
定しています。皆さん、上田会長  
が言っていたようにお友達を一人  
誘って来て感動を分かち合いま  
しょう!!(事務局次長 上野文博)

♪ 楽員さんに 興味津津！ ⑥ ♪

♪ チェロ副首席奏者 猿渡 輔さんに聞く♪

4月18日、札幌市民ホールで行われた宮川彬良指揮、札幌交響楽団演奏による『アキラさんのモダンコンサート』の公演を終えたばかりの猿渡輔さんにお話を伺いました。

## ♪ 音楽室でピアノをポロポロ

出身は千葉県袖ヶ浦市です。姉がピアノを習っていて、親が僕にもやってみたらと勧めたので小学校1年生の時に始めました。でも、音楽教室では練習曲などをしつかりやるといよりは、その時の流行の曲などを弾かせてもらっていました。

チェロに出会ったのは中学校1年生の時です。ちょうど僕が入学した年に弦楽合奏部というのできて、ピアノは好きですと続けていたのですが、弦も面白そうだなあと思って入りまし

た。その音楽の先生がチェロの徳永兼一郎先生に習っていた方でした。楽器を決める時、ほとんどが女の子で体が小さいからチェロを弾く人がいなくて、残っているのはチェロしかなかったのです。僕もそんなに大きい方じゃなかったのですけれども、でも、始めてみると楽しくて夢中になって弾いていました。

## ♪ クラシックに目覚めたのは

高校は幕張総合高校ですが、この学校は少し変わっていて、例えばデザインの勉強をしたい人は大

学みたいにデザイン用のカリキュラムを自分で組むことができます。もちろん普通科目の必修もありま

最初は「スカボロー・フェア」とか入門的なものから始めたのですが、合奏コンクールに出る時に「ブランデンブルク協奏曲」や「ホルベアの時代から」などを演奏することにになり、毎日毎日そればかり弾いていました。みんな音楽室に集まって朝練し、夕練して。体育系の部活に入ったことはありません。体を動かすよりは音楽室で一人、ピアノをポロポロ弾いている方が好きでしたから。

## ♪ 札幌！ぜったい入りたい！

東京音大に入学して、堀了介先生のもとで毎日ものすごく練習しました。大変厳しかったですが先生の教えのおかげでチェロのことがもっともつと好きになりました。卒業後は東京音大の研究科に2年間、そこを卒業してからは高山のオーケストラアカデミーに行きました。本当は、

音大を卒業する時に留学したかったのですが、今はオーケストラに入っていることも留学はできるといことを知ったので、先にオケに入ること考えようになりました。そんな時に札幌のオーデイショ

ですが、音楽も聴音とか音楽理論とかそういう専門的なものが授業でできるので、この高校なら将来どっちにでも進めるかなあと思いました。その時はまだはつきりと言大へ行くとは決めていませんでしたので。

その頃は、流行の曲とかロックやディキシーなどを聴いていて、友人と即興で弾いたりする方が好きでした。でも、入学後すぐ入ったオーケストラ部の友達が結構クラシックオタクで、彼が魅力的な曲をたくさん聴かせてくれたので

す。こんな曲はとても今の自分のチェロでは弾けない、ちゃんと弾けるようになりたい、もっともっと勉強しなくてはだめだと思うようになりました。

チェロは一応専科制だったのですけれども、そこまでちゃんとした講師陣がいなかったため、チェロが弾ける先生に「知っている人で一番偉いチェロの先生を教えてください」と頼んで、個人レッスンを受けに行きました。その時はもう、音大に入ってチェロをやりたいくとはつきり決めていました。

ンがあるのを知ったのです。札幌には研究科の時にエキストラで1度来ていました。札幌はその時が初めてで、4月だったと思うのですが、まだ雪がありました。チェロを持ってバスに乗って芸森に行ったのですが、すごい森の中！東京ではエキストラで通っていたオケの練習場は雑居ビルの中みたいな感じでしたから、札幌はこういうところで練習しているたいと思えました。

## ♪ 人間的であるということ

入団が2008年の11月ですから7年になります。本当に楽しくやらせてもらっています。札幌は響きが独特だなと思います。オケをたくさん知っているわけではないですが、中で弾いている時の響

きが他のオケとは明らかに違って、何か荘厳さみたいなものを感じます。それに、人間関係にぎすぎすした感じがありません。ピリピリしているオケでは、例えばエキストラが挨拶をしても無視され

## 音楽づくりの感覚を磨いて



### プロフィール

東京音楽大学、同大学大学院科目等履修音楽器研究科を修了。サントリーレインボー21デビューコンサート、チェロコングレスジャパン等に出演するほか、国内の様々な講習会、音楽祭に参加。2008年札幌交響楽団に入団。2013年には日本演奏連盟主催による新進演奏家育成プロジェクトで札幌と共演。2014年副首席チェロ奏者に就任。現在、オーケストラの傍らソロ、室内楽奏者として札幌を中心に広く活動している。チェロを佐久間豊春、堀了介、D・フェイギン、岩崎洗の各氏に、室内楽を河合訓子、大野かおる、堀了介の各氏に師事。



チェロを始めた弦楽合奏部で

ることもある。余裕がなくみんな疲れていたりとかあるけれども、札響はみんな優しいし、会話が有り、和気あいあいとしている。そういう印象は、エキストラで来た時からずっと変わっていません。音楽と人というのはすごく密接だとずっと感じていて、優しさや悲しさなど、そういう人間的なものを表現するのが音楽家だから、普段からいかに自分が人間的である

## ♪ 家族と猫に癒されます

休みの日は子どもと遊んだり、自分のコンデイション作りをしたりですね。息子は6月で4歳です。家の近くに広い公園があって自然の中で走り回っています。家族はありがたいです。何かちよつといやなことがあっても、子どもと話したりしているとそれも忘れてしまします。

実は猫が大好きで、息子連れで猫カフェに行ったこともあるんです。以前飼っていたこともあるし、猫の画像とか絵本とか写真集とかばかり見ていた時期もありました。もともと加減とか、お腹とか、肉球のムニムニ、ムスツとした顔、全てがそそられます。憧れます。飼いたいのですが妻が重度の猫アレルギーなので、今は毛が抜けない犬を飼っています。妻は、僕が札響に入団した時はドイツに留学していて、ちょうど

かということはずごく大事なことだと思っています。札響に来た時、今はなくなってしまうけれどフルートの森さんとか、皆さんすぐ人間的で個性的で！ああこれだ、これが音楽家の資質みたいなものなんだなと思いました。昔はもっとすごい人がたくさんいらつしたと聞きますが、札響には今もそんな魅力的な人がたくさんいます。

そろそろ帰ろうかなというタイミングだったので結婚を決めました。向こうの先生にはドイツのオケに入るように勧められたそうですが、彼女は日本に帰らなかったようです。その当時はあまりオケで弾きたいという気持ちはなかったようで、札幌で一緒に暮らせればと。何年か経つうちに、妻もま



東京音大の恩師、堀先生と

た弾きたいと思うようになりまし。今は彼女が自分で色々企画したり、僕も一緒に呼ばれて演奏したりしています。

子どものための「音の絵本」というコンサートも一昨年やりました。明楽みゆきさんと「あらしの夜に」の絵本を書いているあべひろさんと。道立文学館で予定していたのですが、すつこい反響ですぐ売り切れちゃって、急遽2回やることにしたのですがそれもすぐ完売してしまいました。小さなお子さんがいるお母さん達が行くこういう場がないんだなと思いました。ぜひまたこれからも関わっていききたいコンサートです。

## ♪ 僕の選ぶベスト3！

チェロの1番の魅力は、やはり人間の声の音域に近いことです。時には男性の声、時には女性の声のように演奏できます。また、ダ

## ♪ いいものを伝えていきたい

今、世界中で若い人達のクラシック離れが進んでいると聞きます。それに対して僕達ができることは、まず子ども達に「クラシックには敷居というものがない」と知ってもらうこと。そして、子ども達の心に直接響かせ、興味をもってもらえるような「きっかけ」を作っていくことだと思っています。僕自身も若いころはあま

イレクトに楽器の振動を体で感じられるのも楽しいです。

特に好きなのはシューマンですが、バッハやブラームス：みんな興味深いです。現代のものにも惹かれます。武満徹の「波の盆」はすごく感動しました。初めて演奏した時に、泣きそうになりました。吉松隆の交響曲第4番の緩徐楽章もすごく美しく好きです。

チェロの曲ベストスリーですか？すごく難しいですが、あまり知られていないのもっと演奏されてほしいと思うのは、ミヤスコフスキーというロシアの作曲家が書いているチェロ協奏曲。いい曲です。それから小六禮次郎の「あこがれ」という曲。あとは、チェロではありませんが今日のアンコールで演奏した宮川彬良さんの「風のオリヴァストロ」も密かに名曲だと思っています。歌詞の付いたものもあるのは是非聴いてみてください。

## ♪ 自分自身の音楽を発信すること

作って、それを何回かに分けて小学校などに行つて、子ども達が自由作曲や演奏、発表する場を設けるなど、自分から積極的に楽しめるような工夫が必要ですね。どこまでできるかわかりませんが、何かクラシック音楽を子ども達に肌で感じてもらうことができるといいでしょうか。

オーケストラで行う音楽教育プログラムについては、子ども達の感性に直接働きかける近現代の作曲家のものを積極的に取り入れて演奏できたと思います。例えばラヴェルや、ショスタコーヴィッチ、ラフマニノフ、武満などもいいのではないかと。ジョン・ケー

演奏家としても、ソロや室内楽など色々なところで感覚を磨いていかないといけないですよ。オーケストラで難しいなと思うのは、みんなと一緒に弾くだけでも、その中でいかに自分自身の音楽のニュアンスを発信できるかということです。それが自分にとってオーケストラの課題、というか大事なことです。だかと思っています。だから様々な演奏を聴いたり、ソロや室内楽に取り組むことによって、自分の感覚、音楽づくりの感覚とかそういうものを常に磨いていくことが大事だと思います。札響には本当に素晴らしい演奏者がたくさん



5月「森の音楽会」で奥様と

んいらつしゃるので、そのような方からもいつも刺激をたくさん頂いています。土井さん、青木さんと取り組んでいるバッハのゴルトベルク変奏曲も、ライフワークとしてずっとやっていくつもりです。一緒に演奏してくれて、二人にはとても感謝しています。ソロや室内楽が好きというのもあるので、これはオーケストラとリンクしていることなので、ずっと続けて行かなくてはと思っています。

2015年4月18日

担当：井上、村山、中居

# 第1回 札幌くらぶ交流会開催

キタラの改修工事のため、始まりがいつもの年の2か月遅れとなった定期演奏会。待ちわびた演奏の感動と興奮冷めやらぬ終了直後に、今年度最初の札幌くらぶの交流会が、テラスレストラン・キタラで開催されました。

この日は天気にも恵まれ、レストランの大きな窓からは、新緑の木々の葉が6月の爽やかな風に揺れながら、光輝いているのが見えました。

午後4時半。鈴木副会長の乾杯の音頭で早速交流会開始。出席者は総勢40人ほどで、札幌からは、お忙しい中、市川事務局長をはじめ、ヴァイオリンの大森さん、河邊さん、ヴィオラの仁木さん、チェロの荒木さんが出席してくださいました。本当にありがとうございます。会場では、顔なじみが多い中で、初めて参加される方も何人かいらっしゃって、嬉しく思いました。

会場の中の大きなテーブルには、美味しそうな料理がたくさん並んでいます。その中に、会員の山上光一さんが、昨年に続き今年も差し入れてくださった新鮮なアスパラもありました。レストランのご厚意で茹でてもらい、おいしくいただきました。

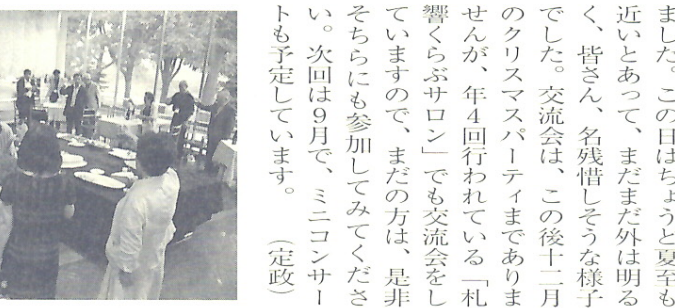
周囲には、ビールやワインなどの飲み物が載った小テーブルがいくつもあり、すぐに楽員さんを開んで、また会員同士4、5人ずつの輪ができます。「札幌」という「共通言語」があるので、初対面でも話題に困ることなく話が弾みます。札幌ファン歴何十年という方



の話に感心したり、その日聴いた



写真/上右から鈴木副会長、仁木さん(ヴァイオリン)、大森さん(ヴァイオリン)、中右から市川事務局長、荒木さん(チェロ)、河邊さん(ヴァイオリン)、下交流会会場となったテラスレストラン・キタラ



ベーターヴェンやブラームスの演奏の感想を話し合ったり、楽員さんからエリシユカさんの練習の様子を聞いて得した気分になったりしました。基本は立食パーティですが、椅子も用意されているので、座ってじっくりと話されている方々もいらっしゃいました。楽員さんからは、ご自身のコンサートの情報も含めて一言ずつお話をいただきました。久しぶりのキタラでの演奏に、楽員さん達の顔も輝いているように感じました。

総会にも出席してくださいました市川事務局長からもご挨拶いただき、感謝の言葉とともに、国の予算削減の厳しい現状も話されていました。私たち札幌くらぶも高齢化で会員数が減少していることを考えると、もともと若く若い会員が増えていくような工夫をしなければいけないと思いを強く感じた交流会にもなりました。2時間があつという間に過ぎ、西川副会長のお話で聞きとなりました。この日はちょうど夏至も近いとあつて、まだまだ外は明るく、皆さん、名残惜しそうな様子でした。交流会は、この後12月のクリスマスパーティまでありませんが、年4回行われている「札幌くらぶサロン」でも交流会をしていますので、まだの方は、是非そちらにも参加してみてください。次回は9月で、ミニコンサートも予定しています。(定政)

## 第578回定期演奏会 練習見学会に参加して

アカシアの花も咲き、爽やかな季節になりました。6月18日、エリシユカさんの練習見学会に参加しました。参加人数120名。エリシユカさんの人気の凄さは相変わらずだなどと思いましたが、私がエリシユカさんの公演練習を聴いたのは2回目です

が、最初の見学のソリ部分がありました。過日、くらぶサロンでホルンの勉強会があり少し詳しくなつたせいか、なかでもホルンの音が心地良く聴こえました。「えっ、もう終わり？」などと思う位にあつという間で、一時間が短く私にとって素敵な魔法にかけられた時間でした。新緑の季節にエリシユカさんが来札された事がなかったのか、札幌くらぶの仲間が休日に藻岩山展望台で中島公園やキタラの方角を眺めているエリシユカさんを見かけたと話しておりました。こよなく札幌を愛し、札幌交響楽団を愛し、私達観客を愛してくださっているエリシユカさんにはいつまでも魔法の指揮棒を振っていただきたいと思いました。追記、20日の定期公演は拍手が鳴りやみませんでした。(横山章子)



Q&Aコーナーで参加者の質問に答えるエリシユカさん(写真提供/札幌交響楽団)

はクラシックを聴き始めたばかりでも何と分りませんでした。ただ、エリシユカさんがまるで魔法使いのように見えました。今回はブラームスが練習曲なので彼の指揮棒で、楽曲に魔法がかかるか楽しみでした。失礼なお話になりますが、年齢の割にエネルギーが豊富な指揮をなさるのでだんだん彼の作り出すブラームスの世界に引きずり込まれてしまいました。演奏途中でストップをかけるのですが彼は必ず「うまく行っている」と褒めてから「この次はこうして」とチエツクを入れます。そのくり返しなのですが楽曲はその度にどんどん磨かれていきました。今回は金

# 招待した中学校からの手紙

今回は、昨年の12月と今年3月に招待した白石中学校と北辰中学校の皆さんからの、喜びや感動にあふれた手紙を掲載します。紙面の関係で一部省略するなどの編集をしています。ご了承ください。

▼私は札幌の方たちの演奏を聴かせていただいてびっくりしました。今までに聴いたことがなく、らい迫力があって演奏者や指揮者だけでなくホール全体が一つになって音楽を作り上げている感じがしました。聴いていると時間を忘れて飲み込まれてしまうような素敵な演奏でした。それから演奏だけでなく入場・退場の仕方や楽器の構え方、指揮者とのアイコンタクトなど一つ一つに意思がある感じで、いつかこんな演奏をしてみたいなと思いました。

▼私は演奏会で時間を忘れるほど聴き入った経験は初めてで本当に素敵だと思いました。私たちはまだ札幌の方たちのまねをできるほど上手ではありませんが、いつか演奏会で聴かせていただきたい。「聴いている方たちを引きつけるような演奏」をしてみたいです。

▼私は演奏中、客席に座っている人たちがステージ上の演奏にひきつけられている様子を目にして驚きました。そして演奏が終わった時、ホール全体で鳴りやまない拍

手にも驚き、自分たちもそのような演奏が出来るようになりたいと改めて感じました。

▼今回は音の余韻にもたくさん種類があることを知りました。また響き方も迫力があり、本当に盛り上がりるところやフィナーレなどは心臓が飛び出るくらい驚き感動しました。

▼弦楽器に注目しました。まず音の入りで全員が一緒に大きくプレスし、弓を弾くと音が丁寧にして繊細に動き始めます。その一瞬時間が止まったように感じた時は思わず鳥肌が立ちました。私はこの生き物のようなプレスこそがお客様を飲み込ませる要因の一つだと思いました。小さな音にも芯があり緊張してドキドキしました。集中して身を乗り出している人の気持ちが良いわかりました。

▼私が感じたのは「音の透明感です。ロビー演奏で最初に出した音が驚くほどきれいでした。今まであんなに近くで弦楽器の音を聴いたことがなかったので、より感動しました。音に吸い込まれていくような

感じがありました。ホルンの透き通った音は「なんであんなにきれいな音が出るのだろうか?」と思いました。

▼札幌の方は体や楽器を大きく動かして音楽を表現していました。また音がハッキリ・しっかりと聞こえ、それぞれの楽器の音もよく聞こえました。私はクリアな音で人に感動してもらえる演奏が出来るような人になりたいです。

▼私たちの席はステージの後ろだったので、お客様の表情や反応が見える場所だったので、みんな音楽に飲み込まれたようになっていし、拍手が鳴り止まなくて驚きました。アンサンブルではみんな気持ち良さそうに演奏していて、これまで楽しい気持ちになりました。

▼人を取り込み圧倒させる音楽の力を感じました。直接自分の目で見て耳で聴いたからこそ感じられる力があり、だから札幌としてお客様に音楽を響かせられるのだと思います。曲が終わった時に自然に拍手したくなる、歓声を上げたくするような生命力を目の当たりにすることができて本当に幸せでした。

▼初めて生のオーケストラを見て聴いて感じて「こんなに深い音楽があるんだ」と驚かされました。客席と演奏者の一体感を感じ出すととても価値のあるもので、ずっとそこに座っていたい気持ちでした。私が一番驚いたことは、拍手の長さ「ブラボー!」と叫んだ

人たちのことです。自分の感情を抑えきれず思わず叫んでしまうのでしょうか。私たちもいつかブラボーと言われるような演奏者・部活になれるよう頑張ります。

▼聴いていてとても引き込まれる音楽で自分たちもこういう演奏がしたい!と新たな目標も出来ました。また、忘れかけていた音楽に対する気持ちも取り戻せた気がします。素晴らしい演奏を生で聴いて肌で感じてとても貴重な体験でした。聞いた音楽を忘れずに、日々こつこつと練習を積み重ねて上達し、来年もまた全国大会へ行けるよう頑張りたいと思います。

▼弦楽器のキレイな音色と管楽器の力強い響き、すごく素敵でした。私はまだまだ未熟者なのでとても良い勉強になりました。

▼プロの演奏を生で聞ける機会はなかなかありません。とても勉強になりました。「札幌くらぶ」の皆様には心から感謝しています。

▼私たちが札幌交響楽団の演奏会に行けたのは「札幌くらぶ」さんのおかげです。行かせて頂けることを知った時、部員全員が大喜びでした。私は嬉しすぎて前日は眠れませんでした。当日もワクワクしていて周りからもそういった雰囲気があふれ出ていました。本当にありがとうございます。

編集担当/佐藤 高明  
定政みち子

札幌の台湾演奏旅行の最終公演は3月28日、台南市政府が主催する台南芸術節の国際イベントとして台南市南瀛劇都心公園の仮設舞台で行われた。招待券には「来自日本北方最純淨的天籟美聲 北海道札幌交響楽団―戸外慶典」と印刷されていたが、これは「日本の北国から来演した最も澄みきった心に響く美しい音色の北海道の札幌交響楽団の野外特別コンサート」という意味だと台湾出身の知人が教えてくれた。

開演に先立ち台南市長の頼清徳さんの挨拶があり、尾高忠明さんが指揮する札幌交響楽団の来演を心から歓迎する、同時に北海道から多くの札幌ファンが台南まで来てくれたことを大変うれしく思うと述べられ、我々が着席していた最前列から2列目の招待席を名指されたので、我々28名(うち「札幌くらぶ」会員7名)全員が起立して壇上の市長に会釈したところ、約3,000人に膨れ上がった会場から万雷の拍手が巻き起こった。感動的一幕であった。

演奏は、歌劇「ウィリアム・テル」序曲の「スイス軍の行進」で始まった。野外だったので、舞台の左右からのスピーカーの音と

オーケストラの生の音が渾然一体となって鳴り響き、正に音のペーレントを繰り広げた。ヴァイオリンの成田達輝さんは、ベートーヴェンのロマンス第2番へ長調、エルガーの愛の挨拶、サラサーテのツイゴイネルワイゼンの珠玉の小品3曲を、札幌の軽妙な伴奏で演奏し、若さに溢れ、曲の隅々にまで情感あふれる繊細な技巧で聴衆を魅了した。第1部の最後には台湾民謡「忘春風」が演奏され、会場は熱狂的なスタンディング・オベーションの大喝采に包まれた。

第2部は、ドボルザークの交響曲第8番、これほどの熱演をこれまでに聴いたことがあるだろうか。野外ステージだっただけに、札幌のメンバーは思う存分に演奏を楽しんでいたように、とくにチェロとコントラバスの弦の低音がよく響いていた。今回の台湾公演のフィナーレを飾るアンコールはラデッキー行進曲、例の拍手は、公園会場に大きくこだました。

尾高さんの12年にわたる音楽監督としての最終公演は、このように最高の盛り上がりの中に終わり、この場に居合わせた幸せをしみじみと感じた。

(札幌くらぶ会員 川端晋太郎)

感動の札幌、台南での最終公演

演奏は、歌劇「ウィリアム・テル」序曲の「スイス軍の行進」で始まった。野外だったので、舞台の左右からのスピーカーの音と

編集担当/佐藤 高明  
定政みち子

# 随想 本棚の隅から 12

## スタッフの活動報告(平成27年4月～6月)

## 編集後記

Kitara ニュースのチケット情報の中でふと目に入った「東京大学管弦楽団・サマーコンサート」に記憶の壁から湧きあがるなにか？

隅っこを探せば出てくるものだ。1981 サマーコンサート

早川正昭指揮

7月23日(木) 札幌市民会館

プログラム

ヴェルディ 歌劇「運命の力」序曲

ラヴェル ラ・ヴァルス

ブラームス 交響曲第4番 木短調

当時、知り合った人から「息子がメンバーなので」とチケットをいただいた。

舞台上にずらりと並んだ学生を見て「うわー、こんなに大勢の東大生を見たの初めて」と、大喜びで私の誘いに乗った若い娘の感想が可笑しかった。

私には、ごく普通の日本人の学生で演奏もごく普通のアマチュア楽団の音だと思った。

(なんてったって、わたしはウィーンフィルもレニングラードフィルも聴きに行ったのだ！)

プログラムの大部分は当時の楽団員の学生が、終身指揮者三石精一氏と当時の指揮者早川正昭氏への賛辞と各楽器のトレーナーに

対する感想で占められている。

彼らの解説の一部を抜粋すると、ヴェルディに関しては「曲は緊張と弛緩を繰り返す。最後には興奮の度を高めてクライマックスに突入します。ここまでくればもう安心です。何が安心かですって。音の大きい所なら得意なのです。」

(北大交響楽団の学生も同じことを言っていた。)

ラヴェルに関しては、「彼の音楽は上品で、典雅で、都会的で、まさにフランスのそれもバリの音楽にほかならない。

えっ！これでフランス音楽のつもり？などと言われないように、ドイツがかったフランスものにならないように演奏したいものです。

ラヴェルはなかなかのダンディで、生涯を独身で通したそうである。ロマンスグレイの魅力がこの曲の中に秘められているかもしれない。これは女子学生が書いたものだ。なるほど！

そういうえば、チケットを下さった方はまさしく「ロマンスグレイ」を絵にかいたような素敵な紳士だった記憶がある。

もう、名前も思い出せない。淡い色の中にかすんでいる遙か昔のこと。(井上明子)

●会報「札幌くらぶ」第70号発行

4月28日(火) 15:00～17:30

札幌コンサートホール2階大会議室

担当・参加者/事務局長他8名  
会報「札幌くらぶ」第70号を800部発行し、ファンクラブ、報道機関、札幌関係に約600部配布、発送しました。

●第1回札幌くらぶ運営会議開催

4月28日(火) 18:00～20:00

札幌コンサートホール大会議室  
担当・出席者/事務局長他12名  
会議において、平成27年度札幌くらぶ総会議案「札幌くらぶ」第71号掲載記事、JOF C高崎総会、第10回札幌くらぶサロンの開催などについて協議しました。

●第10回札幌くらぶサロン開催

5月17日(日) 17:30～21:30

札幌市教育文化会館4階401号室  
担当・参加者/上野事務局次長他約40名

第1部は八木幸三氏による6月、7月の札幌定期演奏会のお話、第2部及び第3部は札幌ホルン副首席奏者山田圭祐氏によるミニコンサートと懇親会を開催、次回は9月に開催の予定です。

●大森潤子ヴァイオリンリサイタル後援決定

5月18日(月)

担当/事務局長

9月15日(金)、札幌コンサートホール Kitara 小ホールにて午後7時開演の「大森潤子ヴァイオリンリサイタル」について、5月12日付で後援依頼があり、5月18日付で承認決定しました。

●第2回札幌くらぶ運営会議開催

5月21日(木) 18:10～20:05

札幌市役所17階説明員控室  
担当・出席者/事務局長他17名  
会議において、平成27年度札幌くらぶ総会議案及び運営、会報「札幌くらぶ」第71号掲載記事執筆分担、平成27年度札幌市内中学校吹奏楽部札幌定期演奏会招待事業、JOF C高崎総会、第10回札幌くらぶサロンの報告などについて協議しました。

●平成26年度札幌くらぶ会計決算監査の実施

6月5日(金) 10:00～12:10

エルプラザ2階打合せコーナー  
担当・出席者/井上・橋詰両会計監査他2名

平成26年度札幌くらぶ会計決算について、帳票など会計書類の監査を実施、承認されました。

●平成27年札幌くらぶ総会議案書作成

6月15日(月) 13:00～14:00

はんこ屋さん21行啓通店  
担当・参加者/事務局長他1名  
平成27年札幌くらぶ総会議案書を両面コピーにて作成しました。

●平成27年度札幌くらぶ総会議開催

6月20日(土) 10:10～11:10

札幌市中島体育センター2階講堂  
出席者/90名(委任状を含む)  
26年度活動報告、26年度会計決算報告・監査報告、27年活動計画、年会費改訂及び札幌くらぶ会則の変更、27年度会計予算の審議を行い、全議案が全会一致で承認されました。

●平成27年度第1回札幌くらぶ交流会開催

6月20日(土) 16:30～18:30

テラスレストラン・キタラ  
参加者/会員・札幌楽員約40名  
第1回交流会を開催、楽員によるコンサートの紹介など行いました。

●第3回札幌くらぶ運営会議開催

6月29日(月) 18:00～20:00

エルプラザ2階18人用会議コーナー  
担当・出席者/事務局長他16名  
会議において、平成27年度札幌くらぶ総会及び交流会の報告、会報「札幌くらぶ」第71号の入稿状況、中学生招待事業、JOF C高崎総会、第11回札幌くらぶサロン、懇談会について協議しました。

●中島公園が一番の賑わいとなる神宮祭も終え静かな公園に戻り、キタラも再開。これから、PMFや吹奏楽子選等次代の音楽家の卵達? 発表の場となります。将来何人の若人がキタラの舞台へ、楽しみですね。(なお)

●樹々の薫る初夏の公園を抜けて「森の音楽会」へ、シューマンのピアノ三重奏曲に込められたチェロとヴァイオリンの猿渡夫妻とピアノの中谷友美さんの情熱に心揺さぶられ頬を濡らした。(井上)

●中学吹奏楽部招待、くらぶサロン活動の充実。二つとも3年目に入り、嬉しい楽しい事がいっぱい!!(章子)

●エリシユカさんの練習見学会見ました! 気魄と息遣いに緊張感があふれる練習風景が感動的です。いい演奏には笑顔と惜しめない賛辞を楽員さんへおくり、あつい信頼関係が築かれていました。皆さん! 練習見学会は必見ですよ!(西川)

●会報のカラー化をNet印刷にて検討中、実現すれば印刷費が節減できる。(武藤)

(事務局長 武藤義典)